

主論文の要旨

体外式超音波パルスドプラ法による胆道癌動脈浸潤診断能の検討

東京女子医科大学消化器外科学教室

(主任：山本雅一教授)

谷澤武久

胆道 第26巻 第1号 64頁～69頁（平成24年3月31日発行）に掲載

【目的】

体外式腹部超音波検査（US）によるパルスドプラ法を用いた、胆道癌の肝動脈浸潤の診断能について検討した。

【対象および方法】

胆管癌及び胆嚢癌に対してパルスドプラ法を用いたUSを施行し、そのうち切除標本が得られ、組織学的診断が可能であった27例を対象とした。腫瘍より中枢側、腫瘍直下、腫瘍末梢側の順に肝動脈の波形を連続的に描出し、動脈に浸潤を認めた場合には、動脈壁のコンプライアンスにも影響を与えるため、収縮期最大血流速度、拡張末期血流速度が変動する。その結果、視覚的に肝動脈波形に変化を認めた場合を動脈浸潤陽性とした。また組織学的動脈浸潤(pA)と比較し、感度、特異度、正診率、陽性反応的中率(PPV)、陰性反応的中率(NPV)を算出した。

【結果】

パルスドプラ法による動脈浸潤の診断能は感度、特異度、正診率、PPV、NPVが各々60.0%、63.6%、63.0%、27.3%、87.5%であった。

【考察、結論】

パルスドプラ法を用いたUSはNPV値が高く、簡便に測定が可能であるため、臨床の現場では有用な検査法であると考えられた。